

大阪人はどこにいる？

山名 寛之

はじめに

今回の大阪人のイメージ調査では、「大阪人」にどのようなイメージを持つのかを様々な面から解析している。だが、その前提として、そもそも「大阪人」とはいったいどのような人のことを指すのかを考えておかなければならない。地理的な範囲で見ると「大阪府民」のことを指すのか、それとも「大阪市民」のことなのか、もしくは「関西人」なのか。時間的な範囲で見ると大阪で生まれた人なのか、それとも高校までの大部分を過ごした人なのか、今現在住んでいる人なのか、これらを明らかにしなければ、ぼやけた的を狙ったダーツのようなもので、考察がずれてしまう。

しかし、この「大阪人」も万人が共通の意識を持ってはいないだろう。大阪に住むもの、その近くに住むもの、遠くに住むものではきっと意識に差があるに違いない。今回は、「大阪人」がどこにいるのかということで、「大阪人」の空間的把握の特徴をみていきたい。

今回のアンケートにおける「大阪人」の空間的範囲の区切り

今回のアンケートは、「大阪人」の空間的範囲を6つに区切っている。

- ①、「関東人」に対する「関西圏の人」
- ②、「東京人」や「名古屋人」に対する「大阪という大都市圏の人」
- ③、全国の中で「青森県人」や「大分県人」、「静岡県人」などと並ぶ「大阪府民」
- ④、関西圏の中で「奈良人」や「和歌山人」と比べた「大阪府民」
- ⑤、関西都市部のなかで「神戸人」や「京都人」と比べた「大阪市民」
- ⑥、⑤よりもさらに狭い範囲

①は、一番大きな範囲である。「関西」は曖昧な表現ではあるが、2府4県（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県）というものが最も一般的である。日常生活レベルで「関西」といえば、「関西弁」や「関西風」などがあるが、その「関西」が指し示す範囲もおおむね同じであろう。

②は、「大都市大阪」にいる人として「大阪人」を見ている。いわゆる、「都会に出る」というときの「都会」に当てはまる範囲であろう。

③は、47都道府県のうちのひとつである「大阪府民」として「大阪人」を見ている。ポイントは日本全体のうちのひとつとしてみていることである。

④は、「大阪府民」としてみていることは③と同じであるが、日本のなかの大阪ではなく、近畿の中の特に大阪について考えていることである。

⑤は、近畿の中で考えているのは④と同じだが、さらに、近畿の中のいわゆる三都のひとつ、都会としての大阪市に住む人として「大阪人」をみている。ゆえに、地図上に明記された大阪の範囲全体を示す③や④よりも狭い、大阪の都会部分のみの範囲である。

⑥は、大阪市よりも小さい、最小の「大阪人」の空間的範囲である。

なお、この論評では、①を「関西人」、②を「日本の中の都会人」、③を「日本の中の大阪府民」、④を「関西の中の大阪府民」、⑤を「関西の中の都会人」、⑥を「さらに狭い範囲」と呼ぶ事にする。

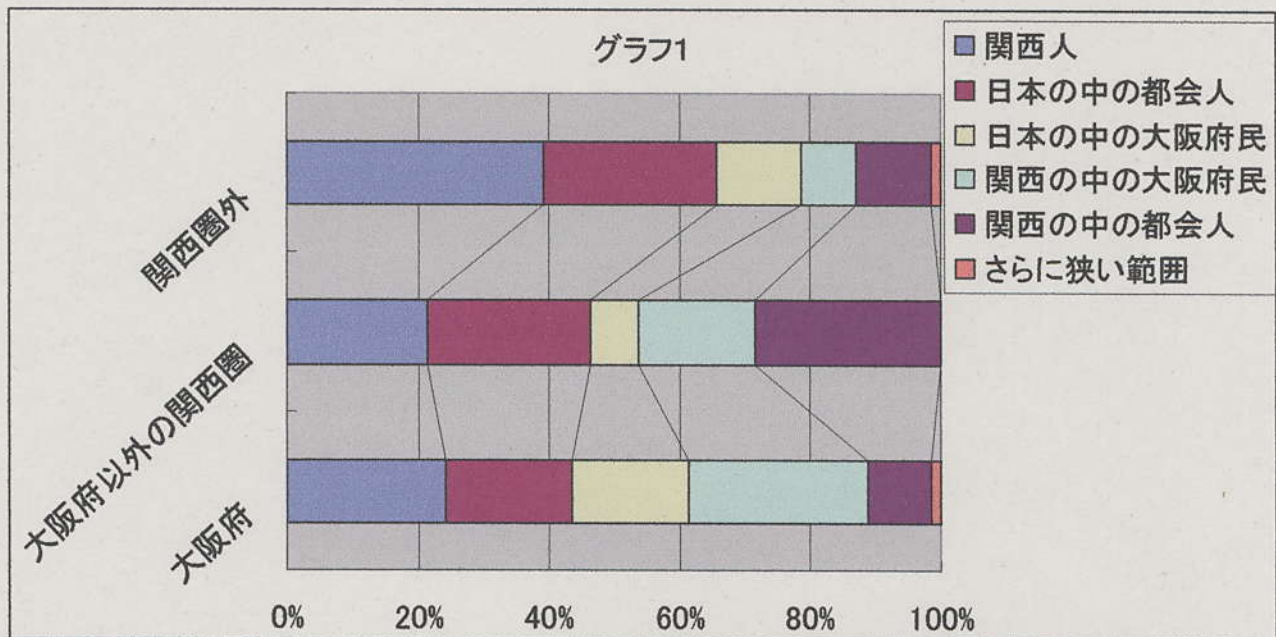
区切りからみた私の意見

①から⑥へと「大阪人」の空間的範囲は狭まっていく。狭く判断するということは、それだけ小さく

他の場所との違いを認識できるということである。つまり、大阪により近い人になればなるほど、狭い範囲として考えているのではないだろうか。この私の認識の是非を、アンケートの結果から解き明かしてみたい。

住む場所による「大阪人」の空間的認識の違い

まず、現在住んでいる場所による「大阪人」の空間的認識の違いを見てみる。下のグラフ1を見てもらいたい。

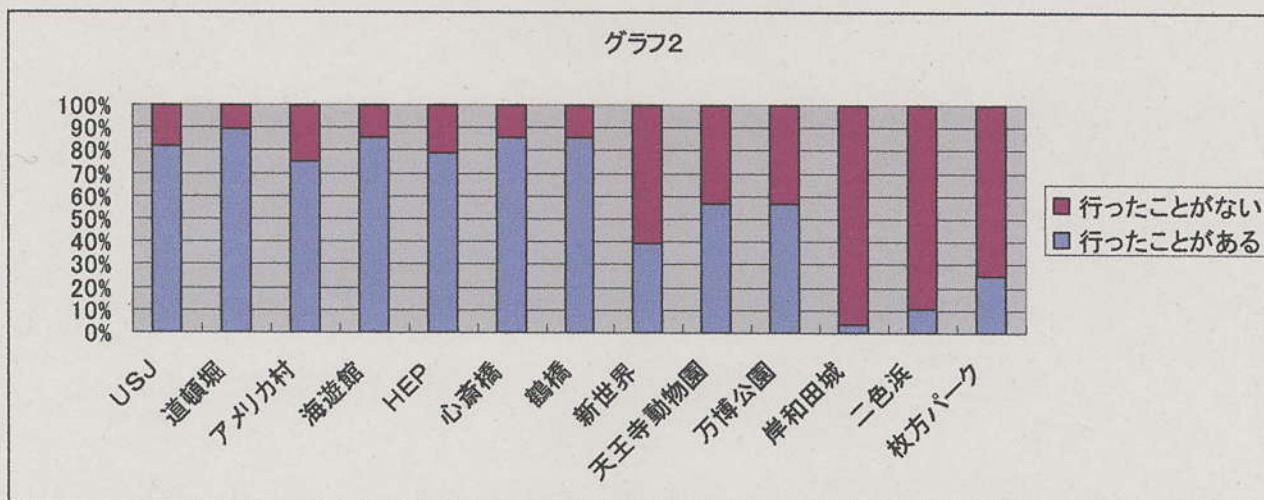


このグラフは、大阪在住か大阪以外の関西圏在住か、それ以外の土地に住んでいるかの3つのグループにわけ、それぞれの「大阪人」の空間的範囲について示している。その第一位をそれぞれ見てみよう。

大阪府在住の人々にとって「大阪人」は、「関西の中の大阪府民」という認識が強いことがわかる。大阪以外の関西圏在住の人々にとっては、「関西の中の都会人」として認識している。また、関西圏外の人々にとっては、「関西人」としての認識が強いことがわかる。

関西圏外に住む人は、今回で言えば、最も大阪から縁遠いわけだが、予想通り最も広い範囲である「関西人」という認識だった。だが、大阪府在住と大阪府以外の関西圏在住ではすこし予想に反した結果が出ている。大阪に近い順としては、大阪府在住、それ以外の関西圏在住という順になるが、大阪府在住は「関西の中の大阪府民」という印象であり、それ以外の関西圏在住は、より小さい範囲である「関西の中の都会人」という認識であった。

なぜ、このような認識をもつのであろうか。これは、おそらく、大阪在住者が都会以外の田舎の大阪を知っているが、それ以外の関西圏に住む人々は都会の大阪にしかいないためではないだろうか。この大阪以外の人々の行動範囲を知る必要がある。ではグラフ2をみてもらいたい。

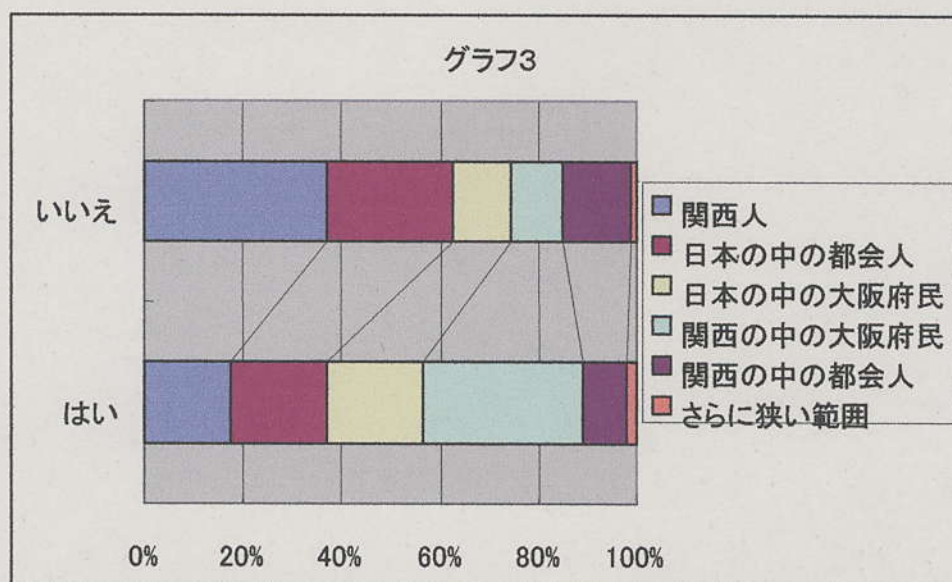


これは、大阪以外の関西圏の人々が行ったことのある、大阪のスポットについてのグラフである。このグラフの軸の項目のうち、USJから天王寺動物園までは大阪市内である。万博公園から枚方パークまでは大阪市外である。すると浮かび上がってくるのは、大阪以外の関西圏にすむ人々は大阪市内に行くことが多い事が一目瞭然である。しかも、今回のアンケート対象者の中に大阪教育大生が多い事から、関西圏の学生が通学に使う鶴橋が多い事を除けば、その大阪市内のなかでもUSJや天保山、難波、心斎橋、梅田など若者が多い、洗練された都会の部分に多く訪れている事がわかる。

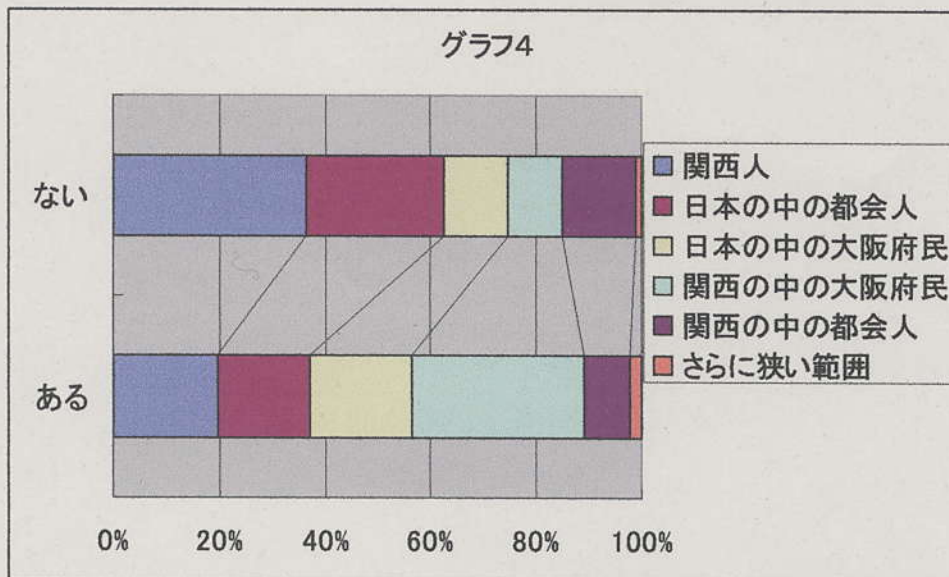
このように、大阪以外の関西圏に住む人々は、「都会としての大阪」に触れる機会が多いため、「大阪人」を「関西の中の都会人」として認識しているのである。

住んだ期間による「大阪人」の空間的認識の違い

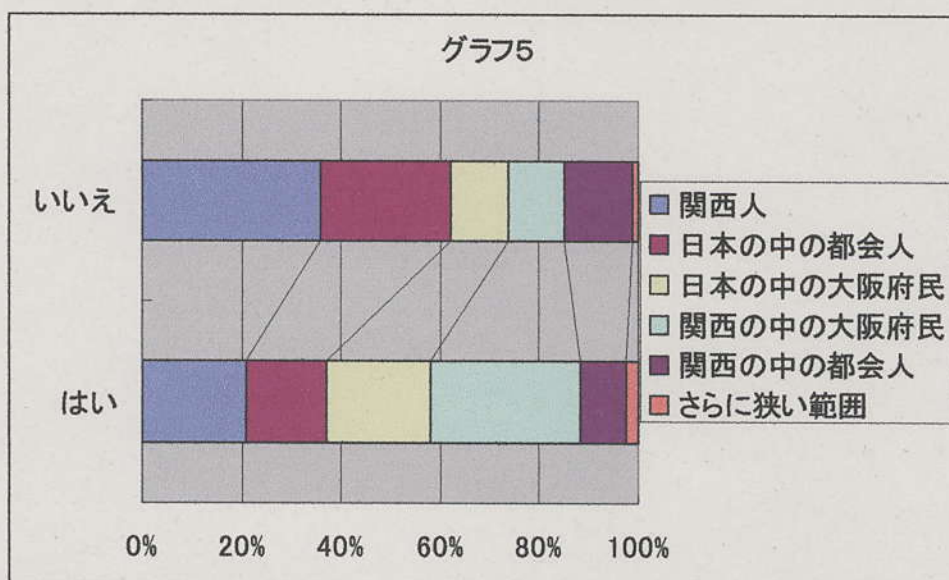
次に、住んだ期間における「大阪人」の空間的認識の違いを見てみる。次のグラフを見てもらいたい。



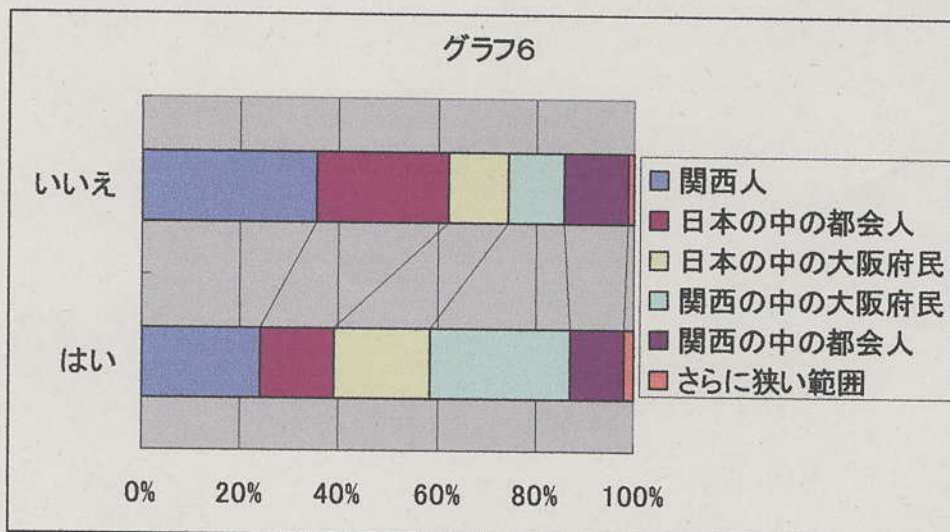
グラフ3は大阪で生まれたかどうかのグラフである。ここでは、大阪生まれの人は「関西の中の大阪府民」という回答が一番多く、大阪生まれでない人は「関西人」という回答が一番多い。やはり、大阪に近い人ほど狭い範囲で認識している。



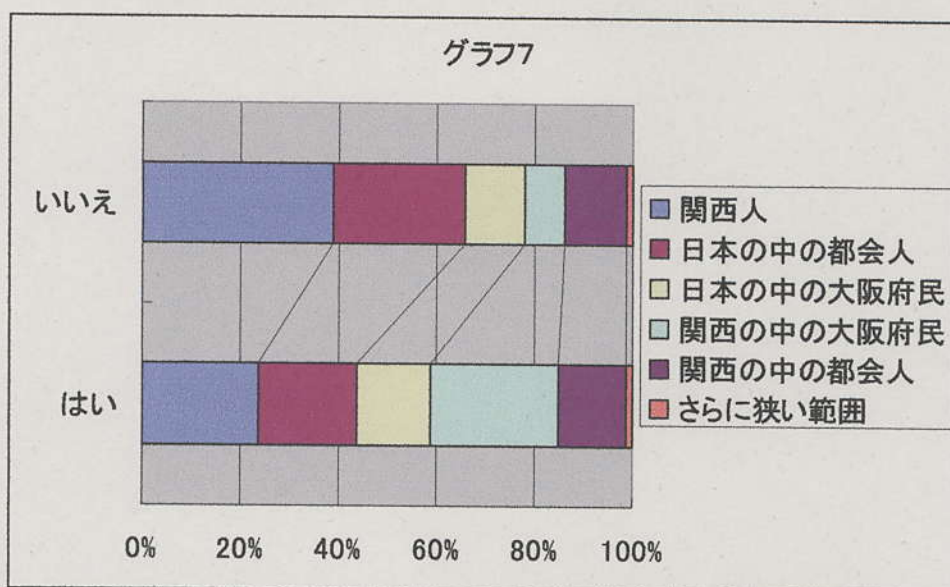
グラフ4は大阪で小学校に通っていたか、を尋ねたグラフである。ここでも、大阪で小学校に通ったことのある人は、「関西の中の大阪府民」という認識が一番多く、逆に通ったことのない人は「関西人」という認識であった。これも予想どおりの結果である。



グラフ5は大阪で中学校に通ったことがあるかを尋ねたものである。ここでも、大阪で中学校に通ったことのある人は、「関西の中の大阪府民」という認識が一番多く、逆に通ったことのない人は「関西人」という認識であった。しかし、大阪で中学校に通ったことのある人の「関西の中の大阪府民」という認識の割合は若干減少している。



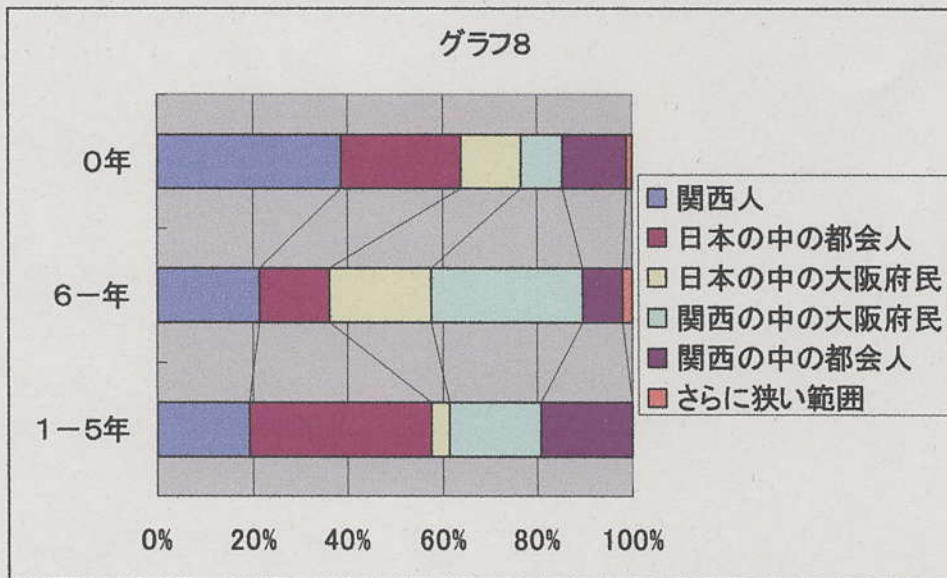
グラフ6は大阪で高校に通ったことがあるかを尋ねたものである。ここでも、大阪で高校に通ったことのある人は、「関西の中の大阪府民」という認識が一番多く、逆に通ったことのない人は「関西人」という認識であるのは今までと同様である。そしてわずかであるがここも「はい」と答えた人の「関西の中の大阪府民」の割合は減っている。



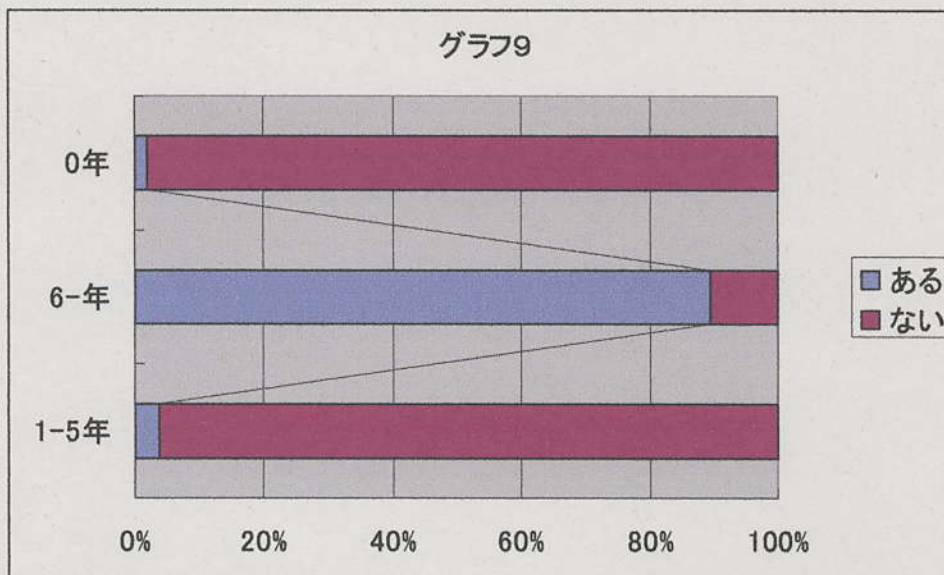
グラフ7は大阪で大学に通ったことがあるかどうかを尋ねたものである。やはりここでも同じように大阪で大学に通ったことのある人は、「関西の中の大阪府民」が一番多く、通ったことのない人は、「関西人」という結果であった。しかしやはりここでも、「はい」と答えた人の「関西の中の大阪府民」の割合は減少している。これは、小学校から大学へと進む中でよりその規模が大きくなり、地元以外から通う人の割合が増加するためである。つまり、小学校の方がより大阪に近く、大学のほうが縁遠いということがいえる。

そして、これらのデータに一貫していることは、どのグラフにおいても「はい」と答えている人は、「大阪人」を「関西の中の大阪府民」と認識する傾向が強い。一方、「いいえ」と答えている人は、「関西人」として認識していることだ。当たり前だが、「はい」と答えた人の方が、「いいえ」と答えた人よりも大阪に近い。

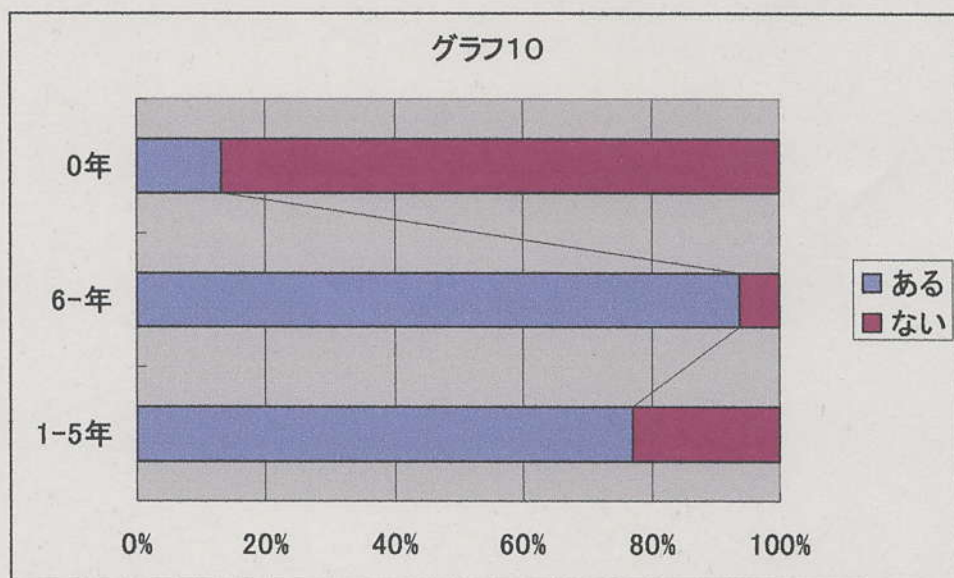
次に大阪での居住年数に関わるグラフをみてもらいたい。



このグラフ8では、大阪に住んだ年数との相関を表している。このグラフから分かる事は、大阪に最も近い、6年以上大阪に住んだ人は、関西の中の大阪府民という認識であり、最も縁遠い1年も住んだ事のない人は関西人という認識だということだ。しかし、ここで興味深いのは、大阪に1-5年住んだ人は、「大阪人」を日本の中の都会人として見ている事である。これはなぜだろうか。下のグラフを見てみよう。



これは、大阪での居住年数と、大阪で高校に通った事があるかの相関である。このグラフから見て欲しいのは1-5年しか大阪に住んでいない人は、ほぼ高校には通っていない。一方、この下のグラフを見てみよう。



これは、大阪での居住年数と、大阪で大学に通った事があるかの相関である。グラフ9では1-5年大阪に住んでいる人はほとんど大阪で高校に通ってはいなかった。しかしここでは1-5年大阪に住んでいる人はぐっと割合が増えており、多くが大学に通っていることがわかる。

この二つから、分かる事は、このアンケートに参加した人のなかで、大阪に1-5年しか住んでいない人は、多くが地方からきた下宿生ということだ。そして、地方から大阪にくる理由として、大阪が東京、名古屋などと並ぶ大都市だからということがあげられる。その結果、1-5年大阪に住む人は、「大阪人」を「日本の中の大都市」の人と考えるのである。

まとめ

いままで、「大阪人」はどこにいるのかということで、「大阪人」の空間的認識について、住む場所と住んだ期間で考えてきた。

住む場所から「大阪人」を考えたとき、関西以外に在住の人たちは「大阪人」を「関西人」と認識し、大阪に住んでいる人たちは「関西の中の大阪人」という認識であった。そこで意外な答えになったのは、大阪以外の関西圏に住む人たちの認識だった。大阪以外の関西圏に住む人たちは「大阪人」を「関西の中の都会人」と認識している。これは、私の予想である、大阪に近いものほど「大阪人」の認識の範囲が狭くなるというものから外れていた。しかし、それは大阪以外の関西圏の人たちが、都会の大阪にしか触れていないということが原因だとデータから理解することができた。

住んだ期間から「大阪人」を考えたとき、幼い頃から大阪に接している人ほど、「関西の中の大阪府民」という認識であった。一方、大阪に住んだことのない人は「関西人」という認識である。また、大阪に住んだ期間が長ければ、やはり「大阪人」を「関西の中の大阪府民」という認識であり、住んだことがなければ、「関西人」という認識だった。そこで、注目したデータは大阪に1-5年住んだ人は「大阪人」を「日本の中の大都市人」と認識していることだ。この理由としては、大阪に1-5年住んだ人は、多くが大学に通うため地方から出てきて下宿をしているということがあげられる。地方から大阪に出てくる人にとっては、大阪は東京、名古屋と同質の大都市という認識になるのである。

これらで見えてきたものは、大阪に近い人ほど、「大阪人」を関西の中の「大阪府民」として認識していることと、縁遠い人ほど「関西人」と認識していることである。これらはおおむね私の予想通りだった。

意外だったのは、大阪以外の関西圏に住む人や、大阪に1－5年住んでいる人といった、程よく大阪に近い人々の「大阪人」の認識である。そして、これらは大阪との接し方や大阪への思いからくるということがわかった。

しかし、ここでひとつ疑問として残るのは、大阪に現在住んでいた、大阪に幼い頃から住んでいた人、つまり大阪に近い人はみな、「大阪人」を「関西の中の大阪府民」という認識を持っている。もし、私の予想ならば、最も小さな範囲である「関西の中の都会人」や「それよりもさらにさらに狭い範囲」を選ぶはずである。これはなぜなのか。

その理由は、住む場所による「大阪人」の空間認識の項を参照すればわかる。大阪に近くなればなるほど、都会としての大阪だけでなく、田舎の大阪など大阪府全体を理解しているためである。